

かんしょの害虫防除について

近年、温暖化の影響から平年より気温が高い傾向にあり、ナカジロシタバの早期発生が懸念されます。つる先や上位葉を注意深く観察し、食害が見られたら早期から防除を行いましょう。

<ナカジロシタバの生態について>



ナカジロシタバの幼虫及び食害痕

ナカジロシタバの幼虫は、5月上旬～6月中旬に第一世代、7月上旬～8月中旬に第二世代、9月中旬～11月にかけて第三世代から第四世代幼虫が発生し、食害をもたらします。

幼虫が小さい時には未展開葉を食害するため、その後、葉が展開した際に葉脈に沿った左右対称の食害痕(穴)がつきます(左写真)。



参考：茨城県農業総合センター
病害虫防除部ホームページ

<防除のポイント>

- ①ナカジロシタバの幼虫は大きくなるほど、薬剤の効果が悪くなる傾向があります。若齢～中齢幼虫の時期(つる先や上位葉に丸く穴の開いた葉が散見される時期)に、薬剤散布を行ってください。
- ②薬剤散布の際は、幼虫が生息する葉裏まで薬液がよくかかるよう散布してください。

例年、ナカジロシタバの被害が拡大するのは、9月中旬以降の第三世代の幼虫ですが、9月は水稻の収穫作業も重なり、ナカジロシタバの防除が遅れ、葉の食害が非常に大きくなる可能性があります。一世代前の第二世代(7月上旬から8月中旬)に圃場をよく観察し、ナカジロシタバの発生が多い圃場では、登録のある薬剤で防除を徹底しましょう。